



網走養護学校だより

令和7年度
第5号
(通239巻号)
3月6日発行

TEL 0152-48-2137

「ワクワクの積み重ねが地域で生きる力になる」

校長 鴻江 康人

柔らかな日射しから、ここ呼人の地にも春の訪れが感じられる季節となりました。

保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動に多大なるご理解と温かいご支援を賜りましたこと、心より厚く御礼申し上げます。

本校では今年度、「地域で自分らしく生きる人を育てる」という教育目標を掲げ、その実現に向けた合言葉として「ワクワク学校～体験的で探究的な学びを愉しむ～」を学校スローガンに歩んでまいりました。

子どもたちにとって、未知のことに挑戦する瞬間や、新しい発見をする瞬間は、心の底から「ワクワク」する時間です。この「ワクワク」こそが学びの原動力であり、困難を乗り越えるしなやかな強さを育みます。この一年、子どもたちは地域での校外学習や宿泊学習、将来に向けた職場体験学習、そして日々の授業を通して、多くの「ワクワク」を経験しました。このような活動から、地域の方々との触れ合いの中で、豊かな社会経験を積み上げたり、自分の役割を全うすることで「誰かの役に立つ」という自己肯定感を高めたりすることができました。こうした一歩一歩が、将来、住み慣れた地域の中で、その子らしく輝きながら自立して生きていくための確かな土台になると確信しております。

次年度も、子供たちの「やってみたい」という瞳の輝きを大切にしながら、教職員一同、さらに魅力ある「ワクワク学校」づくりに邁進してまいります。地域という大きな学び舎の中で、子供たちが安心して自分を表現できるよう、引き続きお力添えをいただけますと幸いです。

結びに、皆様のこれまでの多大なるご協力に深く感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます、年度末のご挨拶とさせていただきます。

令和7年度学校評価の結果から

保護者の皆様におかれては、学校評価アンケートにご協力を賜り、ありがとうございました。特に今年度は、保護者回収率が79%であり、高い関心を寄せていただきました。

学校評価の目的は、当該年度の教育活動や学校経営について評価を受け、学校としての組織的・継続的な改善につなげていくものです。

今年度の教職員の平均点は3.12ポイント、保護者の平均点は3.61ポイントで全体的に高い評価となりました。以下、①②は評価の高かったもの（保護者評価、教職員評価）、③は両者の評価認識が一致、ズレがある項目、④は自由記述に記載された主な内容、下段には、「今年度のまとめ」を記載しています。

①【保護者】高評価項目

項目	評価点
児童生徒への理解を深め、信頼関係を構築している	3.72
学級費などの適切な説明	3.72
個別の教育支援計画の作成・活用	3.69
個別の指導計画の作成・活用	3.67

③両者の評価認識が一致、ズシある項目

ア) 一致して高評価

- ・学校行事・教育活動（3.72）、わかる授業づくり（3.67）

イ) ズシがあるもの

○食育・食事の適切な指導

- ・保護者は高評価であるが、教職員はワースト評価

○危機管理、安心・安全の広報等

- ・マニュアル等は整備されているが、保護者への広報活動に課題がある

②【教職員】高評価項目

項目	評価点
自立活動の適切な実施と効果	3.32
いじめ防止と適切な指導	3.28
学校行事の適切な実施	3.28
危機管理マニュアルの整備と緊急時の対応	3.28

④保護者からの主な意見等

○情報発信：HPの掲載数への期待

○体育活動：市民プール利用に関すること

学校プール（水治訓練室）再開

○進路指導：担当者不在時の連絡や対応

○広報など：いじめ対応や安全管理について学校側からの情報不足

保護者評価については、「児童生徒への理解を深め、信頼関係を構築している」、「学級費などの適切な説明」などの項目で、高水準の評価をいただきました。これらは、日常の教育活動に対するご協力を得ながら、皆様と一体となって学校運営を推進してきた姿勢を評価していただけたものと思います。今後も、地域における学校の役割などの視点を踏まえ、丁寧に合意形成を図りながら、教育活動を展開してまいります。

また、記述の中には、一部説明内容の不足や連携の在り方について、改善を求める意見もありました。現在、学校安全管理や校内環境整備については、すぐに取り組める内容をピックアップし、家庭への情報提供及び改善策の検討をしているところです。施設設備（ICT環境整備を含め）や給食の在り方などについては、道教委の施策と関連するところですが、学校として取り組める部分に着目して、さらなる教育環境の充実に努めます。

その他、次年度においても、児童生徒一人ひとりの豊かな生活に根ざした「個別の指導計画の作成や評価の在り方」、「学校行事の実施」、「教科指導等の内容・工夫」に着実に取り組んでいきますので、重ねてご理解、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

卒業制作(小学部)

『本棚』

小学部6年生の卒業記念作品は「本棚」です。中学部の学習に向けて木工に挑戦しています。のこぎりで木材を切る、釘を打つ、やすりで磨く、接着剤で付ける、ニス塗る。1つ1つの活動に対して安全に気を付けながら丁寧に取り組むことができました。木工の活動は時間が掛かることも多く長い時間、集中力を保ち粘り強く取り組む必要がありました。最初は、のこぎりの振動や釘を打つ大きな音に驚くこともありましたが、回数を重ねるごとに「自分でやりたい」という意欲が勝り、最後まで自分の力で作り上げることができました。

中学部でも、この制作で得た自信を糧に、新しいことへ一歩ずつ挑戦していく姿を応援しています。



卒業制作(中学部)

『メモリーポケット』

中学部では、三年間を振り返りながら「メモリーポケット」を作りました。真っ白な布に、まずはシールやテープを思い思いの形に貼り、その上からローラーや刷毛、筆などを使って色を乗せていきました。二回、三回と丁寧に色を塗り重ね、最後に慎重にシールを剥がすと、鮮やかな色彩の中に模様が浮かび上がります。一人ひとりの個性が表れた、深みのある作品に仕上がりました。ポケットに収めたのは、自分たちで選んだ一、二、三年生それぞれの写真です。手を動かし、色を重ねる作業を通して、当時の懐かしい出来事の一つひとつ大切に思い返しているようでした。自分たちで彩ったこのポケットが、三年の歩みを優しく包む、世界に一つだけの宝物になればと願っています。



卒業制作(高等部在校)

『オリジナル壁掛け時計』

高等部3年生の5人は、これまで学校祭や冬季学習発表会で販売する製品をたくさん制作してきました。その3年間の経験を活かし、今まで製品に使ってきた素材「レザー、木材、布」から好きな素材を選んでオリジナル壁掛け時計を制作しました。機械を使っての木材の加工やレザーを縫う作業、ミシンを使っての縫う作業と、それぞれ作業は異なりましたが集中して取り組み、この3年間でコツコツと積み上げてきた技術がしっかりと表れた作品となりました。

1日に何度も確認する時計。ふと時間を確認したときに、網走養護学校での楽しかった出来事や5人の仲間のことを思い出してほしいなと思います。



卒業制作(高等部訪問)

『クラフトバンド』・『コースターセット』

在宅生は、家族への贈り物としてクラフトバンドで作ったかごを制作しました。長さを測って切ったクラフトバンドを木工ボンドで貼ったり、編み込んだりして作ったかごは、これまで高等部販売会で販売してきました。そして昨年の販売会が終了すると、生徒本人から「家族のみんなに、かごをたくさん作ってプレゼントしたい。」との申し出がありました。卒業式では、心を込めて作ったたくさんのかごを、家族への感謝の言葉とともに贈ります。

施設生の2名は、市川豊さんは、はぎれわっかで、田中孝視さんは、フェルトボールで鍋敷きとコースターのセットを作りました。二人とも心を込めて手を動かし、完成させることができました。

卒業式の日、それぞれの家族へ感謝を込めて贈ります。



編集後記

今号は、学校長挨拶および学校評価の結果と各学部の卒業制作についてお伝えしました。

令和7年度の学校だよりの発行も、今号が最終号です。

今年度も本校の教育活動にご協力いただき、心より感謝申し上げます。次年度もどうぞよろしくお願いいたします。

(文責：竹内)



学校のホームページのアドレスと二次元コードを掲載します。どうぞアクセスしてご覧ください。

<http://www.abashiriyougo.hokkaido-c.ed.jp>